

CSJ Annual Report
2025

日本化学会アニュアルレポート

目次

Top Message ... 01

日本化学会中長期基本戦略（2020 年～ 2025 年） ... 02

2024 年度活動 pick up・2025 年度活動方針 ... 03

春季年会・CSJ 化学フェスタ ... 04

講演会・講習会・実験教室の開催 ... 06

化学を広める・未来の化学者を育てる ... 08

キャリア支援 ... 10

英文論文誌 ... 12

出版 ... 15

グローバリゼーション ... 16

社会に向けた様々な取り組み ... 17

表彰事業 ... 19

企業・団体からのご支援 ... 20

寄付のお願い ... 21

化学会概要 ... 22

会計報告 ... 24

ノーベル賞受賞会員

日本化学会とは

日本化学会は、化学を中心とする多様な領域の研究者・技術者・教育者・学生が研究成果を発表し、交流する日本を代表する化学者コミュニティです。その目的は、産業の振興・知識の普及、並びにそれを担う人材の育成を図り、もって社会の発展に寄与することにあります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための 17 の目標



日本化学会は SDGs を推進した活動を心がけています

Top Message

——世界の化学会を目指して

次世代を担うリーダー型若手研究者を育成しよう

先日、IUPACで各国の化学会会長のオンライン会議が開催され、博士課程学生の増強について討議した。才能ある博士課程学生の育成は、産学界の革新的な研究開発の正否に直結するにもかかわらず、多くの国が博士課程学生の減少に悩まされ危機感を抱いている。日本もこの20年間で学生数が18%も減少している。各国で様々な事情があるものの、魅力的な博士課程にする努力や博士課程に至る初等、中等教育の重要性についての共通認識が得られた。近年の日本経済の低迷やサイエンス面における国際レベルの低下などを食い止め日本を復活させるためには、日本化学会としても提言だけでは不十分であり、地に足の着いた対応が求められるであろう。

さて、日本化学会では以前から化学だいすきクラブや化学グランプリ、国際化学オリンピック事業を通して、化学の普及、さらには才能ある小・中高生の発掘に努めている。特に、化学グランプリ（通称：化学の甲子園）の事業では、毎年、約3,000名の応募があり、その中から筆記試験や実験試験を経て70～80名の成績優秀者を表彰している。しかし、発掘した才能ある若手（いわゆる金の卵）を見出しながら、その後の育成プログラムが用意されていなかった。そこで彼らの傑出した才能、尖った才能や出る杭を大いに伸ばすプログラムを始めたい。すなわち、化学グランプリで表彰された中高生を対象に、世界で活躍できる次世代のリーダー型化学者育成のため、大学から大学院博士課程における支援プログラムを新たに設立していく。

一方、日本化学会では、研究主体の大学院生を育成するため、2026年度から「有機化学若手育成部会」

をスタートさせる予定である。これまで5つの部会組織があったが、20年以上も新たな部会が誕生していない。今回の「有機化学若手育成部会」の誕生は部会組織に新たな進化をもたらすため、その波及効果に期待したい。この新しい部会の目玉は、全国から選抜した才能ある博士課程学生の若手道場としての『大津会議』であろう。『大津会議』とは2010年に誕生した若手育成の場である。すでに第1～15期生が約250名に達しており、産学界でリーダー型研究者として活躍し、一大集団を形成している。

これらの取り組みを繋げることによって、日本化学会では小学生から大学院生までのシームレスな若手育成事業の実現化を目指していきたい。一例として有機化学分野の『大津会議』をあげたが、今後は他の分野にも展開することにより、近い将来、ノーベル賞を勝ち取る逸材が現れることを願っている。

また、日本化学会は3年後の2028年には、設立150周年の節目を迎えることになる。我国の化学者や化学技術者の日頃の活動を通して、広く一般市民や海外の方に、化学分野の社会における重要性や化学に対する正しい認識を持ってもらうための重要な機会と捉えて、この150周年記念事業を計画し、産学界の支援を頂きながら強力に推進したいと考えている。

公益社団法人日本化学会 会長
京都大学大学院薬学研究科



丸岡 啓二

日本化学会中長期基本戦略

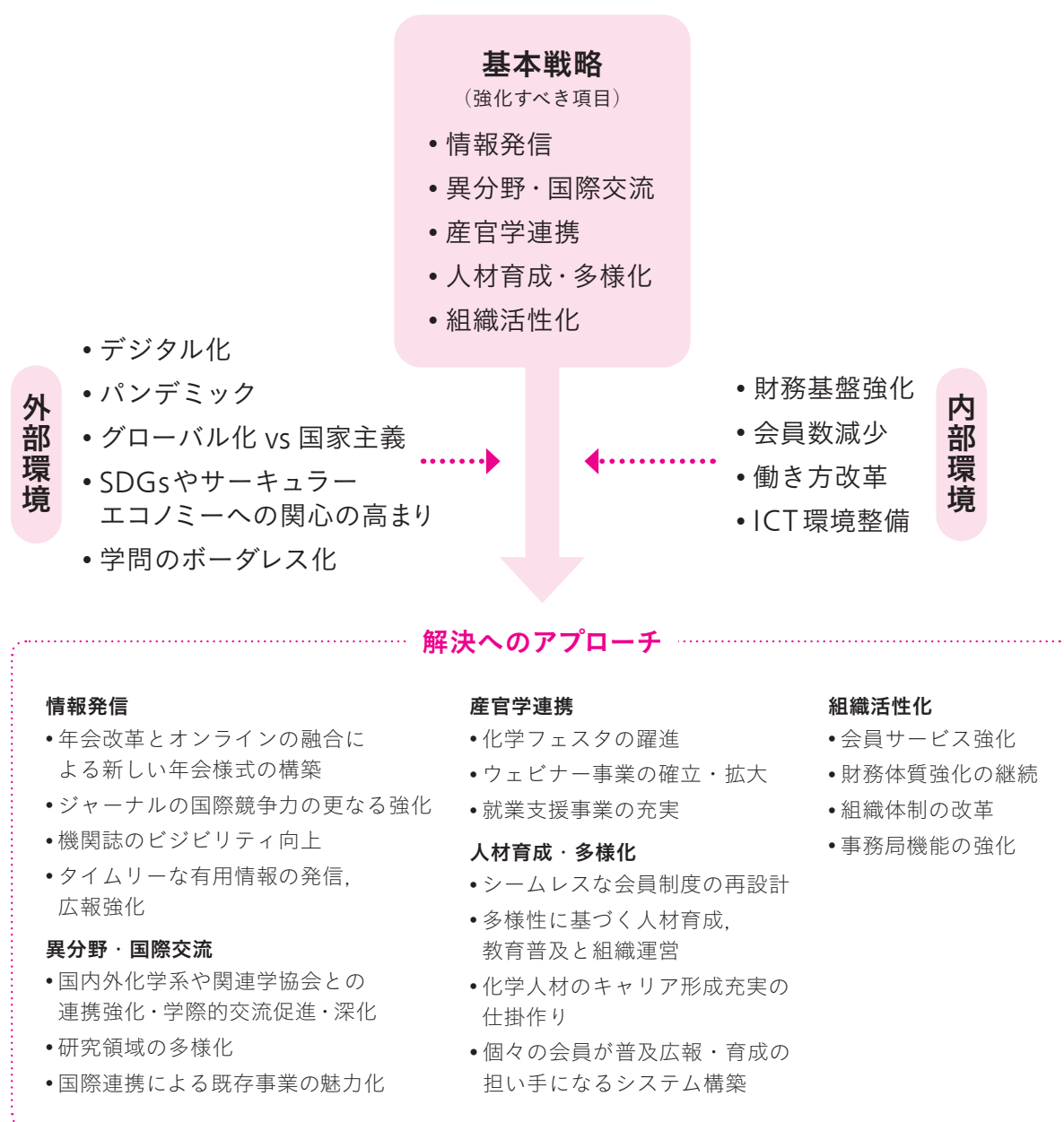
(2020～2025年)

基本理念

日本化学会は、産官学の化学に関わる会員により構成され、世界を先導する研究および技術開発による基礎科学の発展ならびに社会実装を通して、持続可能な社会の構築に貢献します。

基本理念から導かれる 基本戦略

基礎科学の発展／社会実装の実現



2024 年度活動 pick up・ 2025 年度活動方針

2024 年度活動 pick up

ジャーナルがオックスフォード大学出版局との 出版協業開始

2024 年 1 月から日本化学会のジャーナル 2 誌
Bulletin of the Chemical Society of Japan (BCSJ) と
Chemistry Letters (CL) は、出版プロセスの効率化
や掲載論文のさらなるビジビリティ向上等を目的
に、オックスフォード大学出版局 (Oxford University
Press; OUP) との出版協業を開始いたしました。



2025 年度活動方針

中長期基本戦略 強化すべき項目	解決へのアプローチ	2025 年活動方針
情報発信	・年会改革とオンラインの融合による新しい年会様式の構築 ・ジャーナルの国際競争力のさらなる強化 ・機関誌ビジビリティ向上 ・タイムリーな有用情報の発信、広報強化	105 年会の着実な実行、収益改善を意識した 106 年会の準備、安定開催可能な仕組みの検討、推進 ・OUP との連携強化、効率的 PR 実施 ・BCSJ100 周年特集等によるビジビリティの飛躍的向上 ・機関誌プロモーション強化と多角化によるビジビリティ向上、購読者獲得の継続 ・化教誌の出版形態検討による情報発信強化と利便性向上 ・配信メールの充実や図書検索システムの導入による会員サービスの向上 ・ウェブサイトの充実や SNS の開設による一般への PR 強化 広報での学会活動の発信強化による化学普及の推進 (日 / 英アニュアルレポート、グッズ配布、化学遺産など)
異分野・国際交流	・国内外化学系や関連学協会との連携強化 ・学際的交流促進・深化 ・研究領域の多様化 ・国際連携による既存事業の魅力化	国内外の学協会・機関との連携強化による事業協力関係の維持・発展 10 年ぶりの現地開催となる Pacificchem2025 の成功 研究領域の多様化に対応できる本会内の制度・体制の検討 IUPAC、FACS 等での連携活動を通じた国際的存在感の向上
産官学連携	・化学フェスタの躍進 ・ウェビナー事業の確立・拡大 ・就業支援事業の充実	収益性を維持した CSJ 化学フェスタの持続的運営の確立 既存事業の収益最大化に向けた参加者増加策とコスト削減策の実行 ニーズとコストを意識したウェビナー事業のさらなる展開 キャリア支援事業の連携強化による充実化
人材育成・多様化	・シームレスな会員制度の再設計 ・多様性に基づく人材育成、教育普及と組織運営 ・化学人材のキャリア形成充実の仕掛け作り ・個々の会員が普及広報・育成の担い手になるシステム構築	各部門、支部と連携した中高生会員 PR 強化および小委員会による中高生向けサービスの向上 教育普及事業を通じた人材育成、化学普及活動のさらなる発展 多様なキャリア形成に対応した事業の最適化 各種イベントへのグッズ提供を通じた、化学人材育成の機会拡大
組織活性化	・会員サービス強化 ・財務体質強化の継続 ・組織体制の改革 ・事務局機能の強化	アウトソーシング活用による業務効率化および会員サービスの質向上 さらなる財務体質の健全化 (寄附事業・資産運用業務、会館賃貸事業等) 創立 150 周年事業に向けた準備委員会の推進 本部・支部関連の規程類整備、部会体制強化および業務効率化、事務局人材の育成

春季年会・CSJ化学フェスタ

本会では、春と秋に二大イベントを開催しています。

日本はもちろんのこと、世界各地から化学という共通点を持った

様々な分野の研究者が一堂に会す化学系学会最大級のイベントです。

インターネットや文献などの情報収集ではできない「ディスカッション」「face to faceの情報交換」

「産学官の垣根を超えた人脈作りの場」として活用してもらうことを目的に開催しています。

春季年会

国内外から約 6,000 名の参加者と情報がダイナミックに交わる国内最大級の学術イベントとして、毎年 3 月下旬に 4 日間連続で開催されます。講演件数は約 4,000 件に上り、約 50 の会場で実施されます。最先端の化学技術に関する情報を密に、深く、広く、得ることができるほか、研究分野を超えて集い交流する場となっています。第 104 春季年会は前回に引き続き対面での開催となりましたが、一部の会場では現地とオンラインのハイブリッドでセッションを実施しました。また 5 年ぶりに懇親会が開催され、積極的な交流が見られました。今後も年会改革の下、各方面で従来の運営から少しずつ変化を取り入れ、発表者、聴講者双方にとって魅力ある内容を目指していきます。



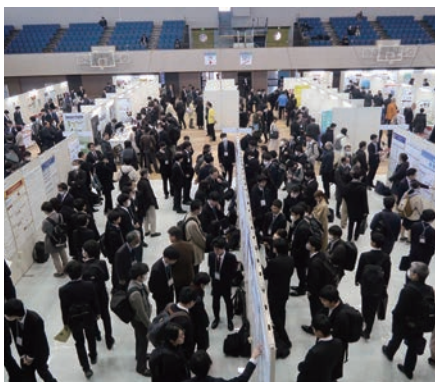
2024年度開催実績

● 第 104 春季年会

参加者数：6,273 名

講演件数：4,016 件

会場：日本大学理工学部 船橋キャンパス



1

2011 年の世界化学年に秋季事業の一環として「産学官の交流深耕」と「化学の社会への発信」を目的にスタートしました。毎年 10 月中旬～下旬に 3 日間連続で開催され約 3,000 名が参加します。参加者は産学官それぞれの立場から「エネルギー・資源・環境」、「新素材」、「バイオ」分野などの最新の化学と技術を紹介する約 200 件のテーマ企画講演および約 1,000 件の学生ポスター発表を聴講できます。2 日目の夜には約 350 名が参加する懇親会が大々的に開催され、業種や年齢の違う多くの仲間を作ることができる場として有効に活用されています。今後も、産学官がさらに交流を深めていけるような様々な挑戦をしていく予定です。

2024年度開催実績

● 第14回CSJ化学フェスタ

参加者数：2,686名

講演件数：1,086件

会場：タワーホール船堀（東京都）



1

春季年会、CSJ 化学フェスタでは会員向けだけでなく、市民の皆さまに向けた講座を開催しています。普段、化学に関わりのない一般市民の方々に化学にもっと親しみを持ってもらおう、化学の有益性を知ってもらうということが目的です。子ども向けの講座は特に人気で毎回定員を超える応募を頂戴しています。



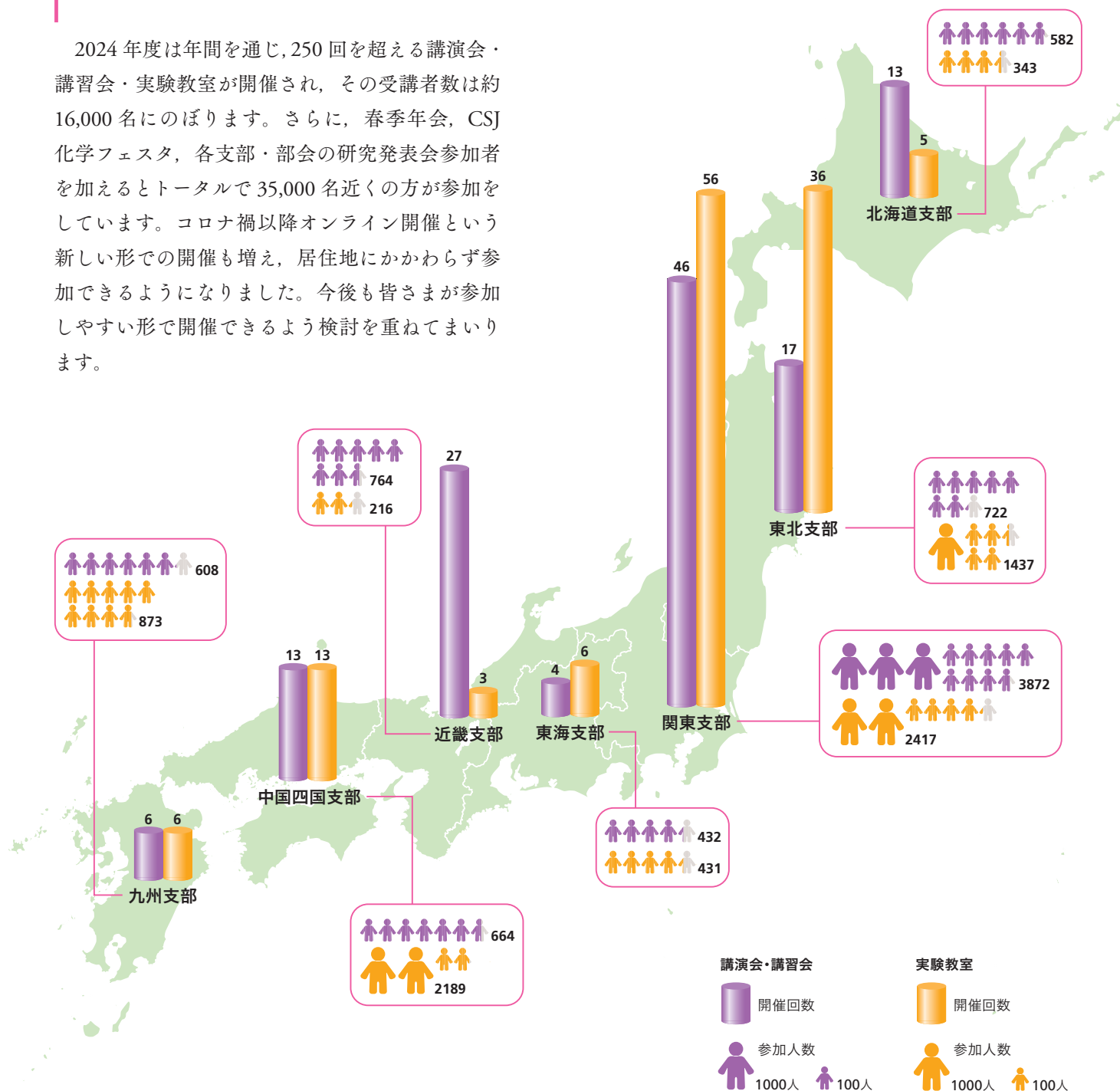
CSI 化学フェスタ公開講座

講演会・講習会・実験教室の開催

変化の激しい現代社会では、最新の専門知識が求められる一方、その高度な専門知識を活かすだけの基礎知識も求められるという二面性を持っています。前述の春季年会、CSJ化学フェスタ以外にも、研究者、教育者にとって有益な情報をもたらす機会を全国規模で多く提供しています。

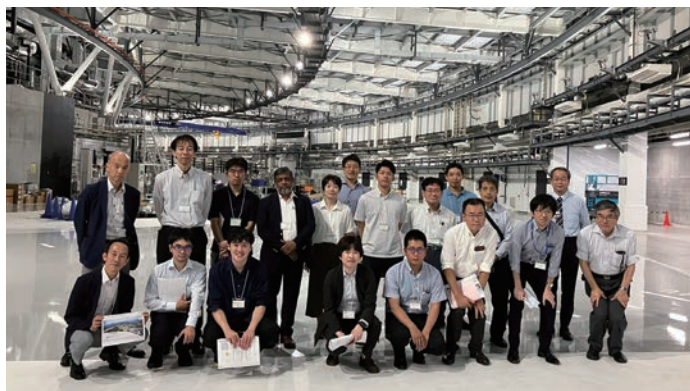
講演会・講習会・実験教室

2024年度は年間を通じ、250回を超える講演会・講習会・実験教室が開催され、その受講者数は約16,000名にのぼります。さらに、春季年会、CSJ化学フェスタ、各支部・部会の研究発表会参加者を加えるとトータルで35,000名近くの方が参加をしています。コロナ禍以降オンライン開催という新しい形での開催も増え、居住地にかかわらず参加できるようになりました。今後も皆さまが参加しやすい形で開催できるよう検討を重ねてまいります。



R&D 懇話会

基礎研究から応用展開までの化学の講演会を企画し、講師と参加者との技術交流を行っています。2024年度は、カーボンニュートラル技術などのオンライン講演会に加えて、放射光施設「NanoTerasu」などの見学会を実施しました。委員会は、早稲田大学などの他、旭化成、花王、味の素、ニコンなどの本懇話会の会員企業の委員から構成されています。



2024年度開催実績

R&D 懇話会法人会員数：25 社

開催回数：8 回

参加者数：176 名

会場：オンライン開催 (Zoom ライブ配信)、現地開催 (産総研北海道センター&アミノアップ、NanoTerasu)

化学技術基礎講座

当該分野の知識習得が必要な企業の技術系新入社員、中堅技術者などを対象とした2日間の短期集中講座です。2024年度は、恒例の5講座に追加して、「光化学」をテーマにした講座を半日のオンライン形式で開催するとともに、初のハイブリッド方式でも開催しました。

現地開催では、ランチミーティングや懇親会を通し、人的ネットワークを形成することができました。オンライン開催では遠方からも受講いただき好評を得ました。今後も現地、オンライン、ハイブリッドそれぞれの良さを活かした講座を開講していく予定です。



2024年度開催実績

開催回数：6 回

参加者数：153 名

会場：現地開催 (1 回)、オンライン開催 (4 回)、ハイブリッド開催 (1 回)

化学安全スクーリング

化学実験に関わる「安全」と「衛生」について総合的に学ぶことを目的とした、毎年恒例の講習会です。化学実験を行う大学、研究所等の安全管理担当者、指導者や化学企業の研究所、プラント、生産現場で安全管理に関わるすべての方を対象としています。ここで得られる情報は、参加者自身の安全管理はもちろんのこと、職場での安全教育や安全管理の向上にも広く活用されています。



2024年度開催実績

開催回数：1 回

参加者数：37 名

会場：化学会館

化学を広める・ 未来の化学者を育てる

子どもから大人まで多くの方に化学を身近に感じてもらいたい、
魅力を知ってもらいたい、という想いのもと、様々な取り組みを実施しています。

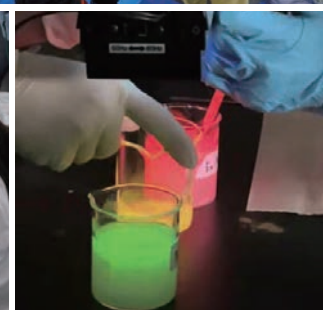
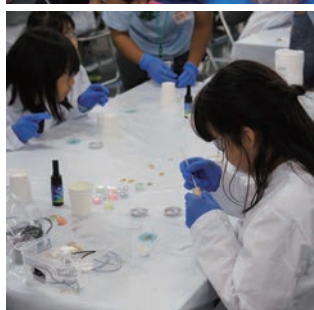
実験教室など

未来を担う子どもたちに化学の面白さを知ってもらうため、日本各地で実験教室や講演会などを実施しています。学校ではできないような体験ができると大変好評です。

2024年度開催実績

開催回数：約130件

参加者数：約8,000名



〔上〕子ども化学実験ショー

〔下・左〕子ども化学実験ショー

〔下・右〕「カナラボ」at 青山学院大学理工学部

化学の日(10月23日)

10月23日は化学の日です。この日はアボガドロ定数(1 molの物質中に存在する粒子の数 = 6.02×10^{23} 乗)に由来します。2013年10月、日本化学会、化学工学会、新化学技術推進協会、日本化学工業協会の4団体は、化学および化学産業の魅力、社会への貢献などを広く知っていただきという想いの下、10月23日を「化学の日」その日を含む月曜日から日曜日までの1週間を「化学週間」と制定しました。この時期には日本各地で化学の日になんだイベントを開催しています。化学の理解拡大が進み、化学の道へ進む子どもたちが増えることを望んでいます。



〔上・左〕夢・化学—21 化学への招待—化学実験教室—(岡山理科大学)

〔上・右〕子ども化学実験ショー 〔下・左〕長崎大学オープンキャンパス

〔下・右〕第114回化学への招待(福岡大学)

化学だいすきクラブ

小・中学生を対象に、情報や体験機会の提供を通じて子どもたちが化学を好きになり、将来化学の分野で活躍する人材に育ってほしいという想いから2004年に発足しました。本事業は、多くの方のご支援の下、寄付金で運営されています。

2024年度開催実績

ニュースレター発行：3回

体験型イベント：3件

参加人数：約80名

メンバー：3,821名



キッズサイエンス 2024（農工大）

化学グランプリ・ 国際化学オリンピック

1998年、国際的にも通用する若い化学者を育てることを目的として「化学グランプリ」が開催されました。現在では約3,000名の中高生が化学の力を競い合います。また、本大会を含めて複数回の試験で選抜された日本代表生徒4名は毎年7月に10日間の予定で開催される国際化学オリンピックに参加します。2025年はアラブ首長国連邦で開催される予定です。

2024年度開催実績

● 化学グランプリ

〔一次選考〕参加者数2,694名（マークシート式）

〔二次選考〕参加者数71名（実験試験）

● 第56回国際化学オリンピックサウジアラビア大会

代表生徒4名参加

（金メダル2 銀メダル2 90カ国・地域・他から327名参加）

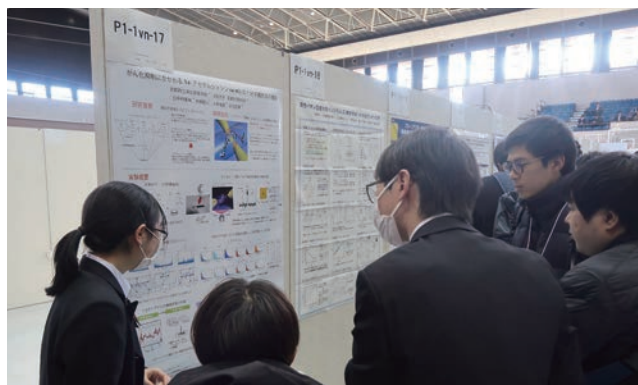


〔上〕国際化学オリンピックサウジアラビア大会

〔下・左右〕化学グランプリ二次試験

中高生会員

2016年、化学に関心が高い中高生の皆さんのために「中高生会員制度」をスタートさせました。年会へ無料参加できるほか、メルマガで「化学と工業」「化学と教育」などのピックアップ記事や化学イベント情報も豊富に提供しています。ピックアップ記事・イベント情報は中高生会員専用のウェブサイトでご覧いただけます。



春季年会でポスター発表を行う中高生会員

キャリア支援

「学生」、「企業」、「大学」、それぞれがface to faceで正しい情報を交換することが重要であるという考えの下、キャリア支援事業を行っています。

企業現場見学会

2017年から学生会員を対象に企業現場見学会を開催しています。工場や研究所の見学やそこで働く方との交流を通じ、企業で働くイメージを持ってもらうことを目的としています。参加した学生からは「実際に研究を行っている現場を見学することができ、企業で研究するということのイメージが湧いた」との感想をいただいています。また、開催企業からは「化学を志向する学生が参加者であるため、非常に積極的であった」との声を頂戴しています。

2024年度開催実績

開催回数：7回

参加者数：134名

- AGC 株式会社 AGC横浜テクニカルセンター（YTC）
- 花王株式会社
和歌山工場内・花王エコラボミュージアム
- 株式会社クラレ くらしき研究センター
- 株式会社クラレ つくば研究センター
- 田岡化学工業株式会社 淀川工場・研究所
- 株式会社日本触媒 吹田地区研究所
- 三菱ケミカル株式会社
Science & Innovation Center



AGC 株式会社



花王株式会社



株式会社クラレ



田岡化学工業株式会社



株式会社日本触媒



三菱ケミカル株式会社

就職交流会

就職交流会は、大学の就職担当教員と企業人事担当者の情報交換を目的に毎年開催されています。参加者からは「多くの企業の方から情報を得られ、有意義な時間でした」（大学関係者）、「それぞれの学校ごとに、学生の募集や採用活動に関するアドバイスをいただけたので大変有意義な交流会でした」（企業関係者）といった感想を頂戴しています。

2024年度開催実績

開催回数：1回

参加者数：約50名（17大学、15社）

会場：オンライン開催（Zoomライブ配信）



座談会, 講演会, セミナー

化学系等専攻の学部生・大学院生を対象とした就職関連の事業です。「化学」に特化したイベントのため企業・学生双方にベストマッチすることが最大の特徴です。学生にとっては自身のキャリア形成を考える良い機会になっており「様々な企業の社員の方の話を聞いて、自分が将来企業で働くイメージがより具体的になった」というような感想を頂戴しています。

2024年度開催実績

- 大学生・大学院生向けの企業研究者とのオンライン座談会

開催回数：2回

参加者数：13名

会場：オンライン開催（Zoomライブ配信）

- キャリアデザイン研究講演会（近畿支部・オンライン開催）

化学系業界紹介イベント（9月 オンライン開催）

企業7社、学生約110名参加

ランチョンイベント（10月から11月計11回 オンライン開催）

企業4社×11回、学生延べ約250名参加

- キャリ探（コロイドおよび界面化学部会）

開催回数：1回

参加者数：79名

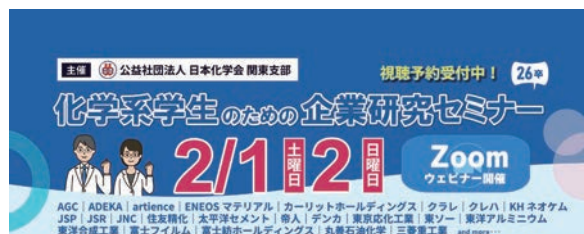
会場：信州大学工学部

- 化学系学生のための企業研究セミナー（関東支部）

参加企業：計28社

会場：オンライン開催（Zoomウェビナー・ライブ）

※一部アーカイブ公開あり



英文論文誌

英文論文誌2誌 **Bulletin of the Chemical Society of Japan (BCSJ)** と **Chemistry Letters (CL)** を発行しています。2013年からは科研費「国際情報発信強化」の支援を得て、編集体制の強化・質の高い論文の掲載・レベルの高い著者の獲得・メールやSNSを活用した論文PRなど国際的な情報発信強化に取り組んでいます。

海外出版社オックスフォード大学出版局との協業効果

2024年1月からオックスフォード大学出版局 (Oxford University Press; OUP) との出版協業を予定通り開始いたしました。この協業により以下の効果を得ることができ、ジャーナル向上に大きく寄与しています。

①国内外での購読機関数増加（前年比約5倍）によるビジビリティの促進

OUP との協業により、国内・海外での購読機関数が2023年比で約5倍となりました。これまで論文を閲覧できなかった機関でも論文を読むことができるようになり、ビジビリティ強化を大きく促進できています。

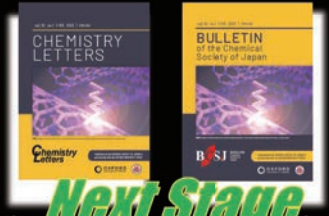
② Read & Publish 契約（R&P 契約）の推進によるオープンアクセス化の促進

R&P 契約とは、その契約を結んでいる機関に所属する研究者の論文が契約で定められているジャーナルで採用となった場合に著者が費用を負担することなくオープンアクセス（OA）にて論文を公開できるというもので、著者がOA公開する機会が増えると考えられています。現在、世界的にR&P 契約を推進する流れとなっており、2025年1月時点で、国内では25機関がOUPとR&P 契約を結んでいます。今後もさらに推進していく予定です。

③掲載論文の Web of Science への収録の効率化と迅速化

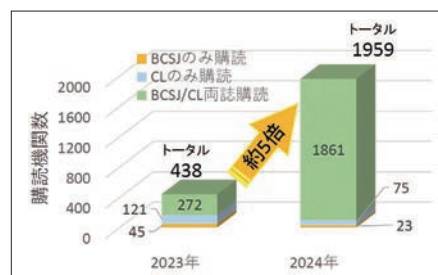
2023年までは、掲載論文の書誌情報を Web of Science（クラリベイト・アナリティクス社提供）に効率的に提供できておらず、Web of Science への収

The Chemical Society of Japan
Oxford University Press
Collaborative Publication



Next Stage

- **Enhanced Visibility**
Boosting the global visibility of published papers.
- **No Page Charges, No Color Charges**
You can publish your paper at no cost.
- **Advancing Open Access**
Promote open access as a cornerstone of the progression of the open science movement.



購読機関数の増加

Read&Publish(R&P)契約の促進

○2023年契約(11機関)
秋田大学、宇都宮大学、愛媛大学、岡山大学、慶應義塾大学、高知大学、政策研究大学院大学、東京大学、東京海洋大学、立命館大学、早稲田大学

○2024年契約(9機関)
岩手大学、大分大学、関東学院大学、甲南大学、滋賀医科大学、東京電機大学、名古屋大学、弘前大学、山形大学

○2025年契約(5機関)
香川大学、近畿大学、埼玉大学、島根大学、筑波大学 (各五十音順)

R&P 契約の国内 25 機関

録に時間を要しておりました。しかし、OUP との協業により、OUP からクラリベイト・アナリティクス社に対して掲載論文の書誌情報を適時的確なデータ提供を行うことができるようになり、迅速に Web of Science への収録を行うことが可能となりました。

④海外でのジャーナルプロモーションの強化

これまでは、海外で開催される会議にてジャーナルプロモーション (PR) を実施することは難しかったのですが、OUP の国際的なネットワークを用いることにより、海外で開催される会議にてブース出展やデジタルマーケティングによるジャーナル PR を実施できており、海外でのジャーナル PR を強化することができました。

⑤論文インパクト指標の可視化

論文インパクトの指標である「被引用回数 (citations)」, 「該当ウェブページ閲覧数+PDFダウンロード数 (views)」, 「オルトメトリクス (altmetrics)」を各掲載論文のウェブページに表示させ、論文インパクト指標の可視化を実施しています (右図)。Account/Review 論文や優秀論文では、公開して間もなく views が 1000 回を超える傾向にあることがわかり、注目を集めている論文が一目でわかるようになりました。



論文インパクト指標の可視化

創刊 100 周年を迎える BCSJ の特集企画始動

BCSJ は 1926 年創刊で、2025 年で創刊 100 周年を迎えます (1945 年と 1946 年は発行を休止しているため、Volume 100 は 2027 年に迎えます)。創刊 100 周年を祝して「BCSJ 100th Anniversary Collection」というウェブ特集を実施します。この特集は、菅裕明 博士 (日本化学会前会長) と丸岡啓二 博士 (日本化学会会長) をゲストエディターとしてお迎えして、国内・海外の著名な研究者の高品質な Account/Review 論文を掲載していく予定です。



BCSJ 100 周年を PR するチラシ

<https://academic.oup.com/bcsj/pages/100th-anniversary-collection>



Impact Factor は BCSJ と CL ともに堅調

2024 年に発表となった Impact Factor (IF) は BCSJ が 3.3, CL が 1.4 となり, 2 誌ともに堅調な数値となりました。

メール配信や X (旧 Twitter) を利用して掲載論文を PR

個人会員 (ディビジョン登録者) を対象にメールにて掲載論文情報の配信をしています。各ディビジョンに関連する内容の論文で, フリーアクセス論文を中心にお知らせしています。X では, 掲載論文情報や国際会議等でのジャーナル PR について配信しています。フォロワー数は 3,000 名を超えました。オリジナル企画「ジェンセン・レイダーの化学論文を書くための英語講座」は好評につき配信継続中です。また, オリジナル企画第 2 弾「集え! 若き化学者たち」の配信を開始しました。主に優秀論文や Review 論文の第一著者である学生にスポットを当て, 「研究室でのルーティン/こだわりの行動」や「My Favorit ○○」などの質問に答えていただき, 優秀な学生を紹介する企画となっております。

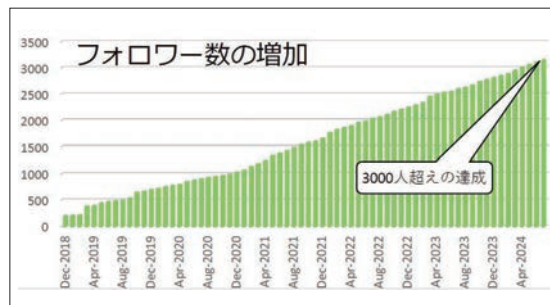
ぜひフォローをお願いいたします。



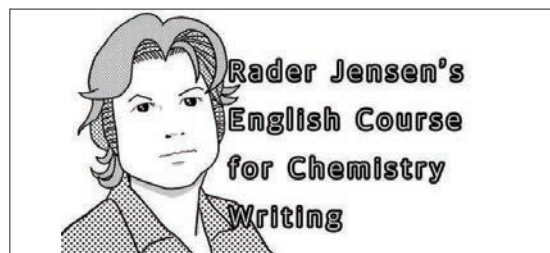
X アカウント - CSJournals_jp

Account/Review Collection (BCSJ) Highlight Review Collection (CL) の配布

質の高い Review 論文を多数掲載しており, それらの論文をより多くの研究者に認知してもらうために, タイトル, 著者名, キーワード, アブストラクト, 責任著者写真をまとめた小冊子「Account/Review Collection (BCSJ)」と「Highlight Review Collection (CL)」を作成して広く配布を行っています。



X のフォロワー数の推移



X での英語講座企画



X での若手研究者 (主に学生) にフォーカスした企画



[上段] Account/Review Collection (BCSJ)

[下段] Highlight Review Collection (CL)

出版

1891年の「化学訳語集」刊行以降、様々な出版事業を行っています。
現在は機関誌・英文論文誌・書籍を発行し、社会の変化を捉えた誌面の充実、
最新の研究や生活の中の化学を社会に届けるための情報発信に取り組んでいます。

化学と工業誌：最新情報を会員に

毎月1日に発行し、会員に配布しています。
毎号、特集テーマとして化学や化学工業分野の最新情報を取り上げ、わかりやすく解説した記事を掲載しています。2024年は「炭素循環」「探査機「はやぶさ2」「バイオインフォマティクス」「超分子化学」「自在配列」「分子シミュレーション」「ハイドロゲル」などの話題を取り上げました。このほかに、注目トピックスのインタビューを扱った記事「OVERVIEW」、会員の紹介記事「CCIサロン」などを掲載しています。



化学と教育誌：教育現場に役立つ情報を

毎月20日に発行し、教育会員や教育学生会員等に配布しています。毎号、教育現場で役立つ化学実験の紹介や最新情報をわかりやすく解説した記事や会員からの投稿記事も審査の上掲載しています。2024年は、最新のトピックスとして「化学研究における機械学習の活用」などの特集を実施しました。



様々な刊行物

日本化学会では、「化学便覧」「実験化学講座」「カレントレビュー」「化学の要点」など、数多くの書籍を編集・刊行しています。2024年度は、カレントレビュー49～50巻を発行しました。



2024年度出版物

- [CSJカレントレビュー49] 固体材料開発のフロンティア
熱力学的支配を超えた物質合成と新機能開拓を目指して
- [CSJカレントレビュー50] 化学における情報・AIの活用
解析と合成を駆動する情報科学

など

グローバル化

化学の世界で国際的なリーダーシップを発揮し活躍できる人材育成、研究推進を強力にサポートしています。また、持続性社会の確立、SDGsの達成、地球環境の保全などの重要な課題に対し、基幹科学としての「化学」の後ろ盾を担う本会が「solution provider」として政策への提言やCS3 (Chemical Sciences and Society Summit) などのプラットフォームを通じて世界の化学会と協調して情報発信を行っています。

国際的連携・協調, 異文化交流

化学の国連ともいえるべき IUPAC^{※1} や、アジア化学連盟；FACS^{※2} との国際協調、また ACS^{※3} と密接に連携し顕彰する Nakanishi Prize, RSC^{※4} との二国間協定に基づく PCCP Prize 授賞選考、さらには CSLT^{※5} や ICS^{※6} とも協力協定を締結し共同して国際シンポジウムを開催するなどの活動を行っています。また様々な国際会議に代表者を派遣し化学会の国際競争力の向上と認知度拡大に貢献しています。

※ 1 The International Union of Pure and Applied Chemistry

※ 2 The Federation of Asian Chemical Societies

※ 3 The American Chemical Society

※ 4 The Royal Society of Chemistry

※ 5 The Chemical Society Located in Taipei

※ 6 The Israel Chemical Society



日英シンポジウム

Pacificchem (環太平洋国際化学会議) の開催

5年に1度、世界化学界の一大イベントである Pacificchem をハワイ・ホノルルで開催しています。次回 2025 年の第 9 回はカナダがホスト国になります。日米加の設立 3 学会に加え、中韓豪および NZ の 7 化学会が共同主催し、前回 2021 年には世界 71 ヶ国・地域から約 8,700 名、会期中平均視聴数 8,100 名超（オンライン開催のため）の参加者を迎え、10,000 件近い講演が行われました。次回 2025 年はテーマを Building Communities to Address Global Challenges とし 12 月 15 ~ 20 日の 6 日間ホノルルで開催される予定です。



社会に向けた様々な取り組み

時代の変化と共に学会に求められるものも変わります。
本会においても、その変化に対応するべく様々な取り組みを行っています。

化学遺産関係

委員会への寄付をもとに著名な化学者との対話冊子の作成や化学関連の文化遺産の調査、認定、発表をしています。2024 年は5 件が化学遺産に新規認定されました。また、毎年市民公開講座にて新規認定遺産の解説講演を開催しています。

2024年度認定化学遺産

- 第068号 光学ガラス製造に貢献した高松亭の実験ノート
- 第069号 トール油蒸留パイロットプラント
- 第070号 大谷杉郎のビッチ系炭素繊維基礎研究資料
- 第071号 世界に先駆けた家庭用殺虫剤の展開
- 第072号 緒方洪庵使用壮年期及び晩年期薬箱と関連文書

市民公開講座

開催回数：1 回

参加者数：122 名（現地21 名／オンライン101 名）

会場：ハイブリッド開催（化学会館／Zoom）

缶バッジデザインコンテスト

「化学の日」を広める取り組みの1 つとして、2015 年より毎年「化学の日缶バッジ」のデザインを公募しています。最優秀賞は缶バッジとして各種イベントにて配布されます。入賞作品は日本化学会ウェブサイトをご覧ください。

2024年度応募実績（総数：1,703 点）

小学生の部：11 点

中学生の部：1,021 点

高校生の部：509 点

一般の部：162 点



〔上段左〕実験ノートと成分表メモノート 〔上段中央〕1965 年 PVC ビッチ以外の石炭ビッチ、石油ビッチからの炭素繊維 〔下段左〕緒方洪庵使用の薬箱 〔下段中央〕フマキラー殺虫液、使用状態にセットした霧吹き器 〔右〕トール油蒸留パイロットプラントの記念碑（モニュメント）

2024年缶バッジデザインコンテスト結果



最優秀賞（バッジ作品）



優秀賞

吉野彰研究助成

リチウムイオン電池開発における革新的な功績により 2013 年度に The Global Energy Prize (2002 年にロシアで創設されたエネルギー分野のノーベル賞といわれる最も権威ある賞) を受賞された吉野 彰 氏 (旭化成株式会社, 日本化学会名誉会員) が, その報奨金をエネルギー, 環境, 資源分野の研究活動の活性化のために有効に使いたいとの思いから本会に寄付され, その基金を基に 2014 年度に「吉野彰研究助成事業」が創設されました。募集テーマについては毎年吉野先生自ら設定されております。

2024年度助成対象者

氏名: 中山 雅晴 (山口大学大学院創成科学研究科 化学系専攻 教授)

研究題目: 洋上風力発電

—水素変換のための直接海水電解触媒のスクリーニング—

—活性および塩素—酸素選択性の評価プロトコルの確立—

助成額: 200 万円



長倉三郎賞

2020 年 4 月に逝去された日本化学会元会長／名誉会員・長倉三郎先生のご遺族より, 化学の発展と後進の育成のためにと多額の寄付をいただきました。これに基づき, 本会は 2021 年度に長倉三郎賞を新設いたしました。この賞は, 研究・開発における業績の独創性と独自性を特に重視して未来の化学を担う将来性のある受賞者に授与される点等, 他の日本化学会各賞とは一線を画した新しい賞であり, 次世代の優れた化学者を育成し, 化学と日本化学会のさらなる発展に大きく寄与すると期待しております。

2024年度受賞者

● 第4回長倉三郎賞

氏名: 杉安和憲 (京都大学大学院工学研究科 教授)

受賞題目: リビング超分子重合の開発と分子集合体の精密合成への展開

正賞: 表彰楯

副賞: 1,000 万円 (使途や期間等の制限なし)



表彰事業

化学の基礎または応用に関する研究業績, 並びに我が国の化学工業の技術開発,
化学教育上の業績, 本会活動への功績について, 毎年各賞の選考委員会において厳正な選考が行われ,
理事会の審議を経て決定, 受賞者の表彰を行っています。

2024年度各賞受賞者(敬称略)

第77回日本化学会賞

伊藤 肇(北大院工)
君塚信夫(九大院工)
田原太平(理研)
中嶋 敦(慶大理工)
中谷和彦(阪大産研)
山下弘巳(阪大院工)

第42回学術賞

秋根茂久(金沢大ナノ生命研)
島 隆則(理研)
新谷 亮(阪大院基礎工)
杉安和憲(京大院工)
高鍋和広(東大院工)
並河英紀(山形大理)
速水真也(熊本大院先端)
前田大光(立命館大生命)
松崎典弥(阪大院工)
美多 剛(北大WPI-ICReDD)

第74回進歩賞

大竹研一(京大 iCeMS)
権 正行(京大院工)
多々良涼一(横国大院工)
中田明伸(京大院工)
西井祐二(阪大院工)
福井識人(名大院工)
八木亜樹子(名大ITbM)

山岸 洋(筑波大数理物質)

山本瑛祐(名大未来研)

第13回女性化学者奨励賞

田良島典子(徳島大院医歯薬)
八木亜樹子(名大ITbM)

第73回化学技術賞

長谷川嘉則
竹内黎明
駒見成実
畑谷友亮
吉田 穰
(以上, 花王(株))
齋藤 奨
村田 進
三川展久
松川直人
中山 康
(以上, 三井化学(株))

第30回技術進歩賞

細谷昌弘
田中雅巳
(以上, 塩野義製薬(株))

第49回化学教育賞

田口 哲(北海道教育大)

村上忠幸(京都教育大名誉)

第42回化学教育有功賞

中川徹夫(神戸女学院大)
松浦紀之(立命館中・高)

第43回化学技術有功賞

中川達央((株)ユニソク)

第20回功労賞

該当者なし

第4回長倉三郎賞

杉安和憲(京大院工)

企業・団体からのご支援

100口以上

AsahiKASEI

KaO

 Color & Comfort

DIC 株式会社

'TORAY'

FUJIFILM



Mitsui Chemicals



三菱ケミカル株式会社

50口以上

 Your Dreams, Our Challenge

Kaneka

 Possible starts here

 住友化学

 株式会社ダイセル

TEIJIN

 東ソー株式会社

 MARUZEN PUBLISHING

RESONAC

10～49口

化学

artience (株)
(株) ADEKA
荒川化学工業 (株)
石原産業 (株)
(株) 大阪ソーダ
大塚化学 (株)
関西ヘイント (株)
クミアイ化学工業 (株)
(株) クレハ
興和 (株)
三洋化成工業 (株)
JSR (株)
JNC (株)
信越化学工業 (株)
住友精化 (株)
住友ベークライト (株)
積水化学工業 (株)

セントラル硝子 (株)
高砂香料工業 (株)
デンカ (株)
東亜合成 (株)
(株) トクヤマ
日亜化学工業 (株)
日油 (株)
日産化学 (株)
日鉄ケミカル & マテリアル (株)
日東電工 (株)
日本化学工業 (株)
日本化薬 (株)
(株) 日本触媒
日本ゼオン (株)
日本曹達 (株)
三菱ガス化学 (株)
森田化学工業 (株)
UBE (株)

ライオン (株)
医薬品
アステラス製薬 (株)
小野薬品工業 (株)
塩野義製薬 (株)
第一三共 (株)
田辺三菱製薬 (株)
中外製薬 (株)
Meiji Seika ファルマ (株)

ゴム製品
(株) ブリヂストン
横浜ゴム (株)

食料品
味の素 (株)
サントリーホールディングス (株)

石油・石炭製品
出光興産 (株)

ENEOS (株)

機械
ダイキン工業 (株)

金属
東洋鋼鈑 (株)
公的研究機関
(国研) 理化学研究所

精密機器
(株) 島津製作所

電気機器
コニカミノルタ (株)
日本電子 (株)
(株) 村田製作所

非鉄金属
住友電気工業 (株)

口数、業種別に 50 音順・敬称略 (2025 年 4 月 1 日現在)

ほかにも幅広い業種 (電気・ガス、鉄鋼、パルプ・紙、輸送用機器等) を含む多くの企業・団体にご支援いただいています。
詳細は下記 URL をご参照ください。(397 社)

<https://www.chemistry.or.jp/societyguide/organization/corporationlist.html>

公益社団法人 日本化学会 ご支援のお願い

(公社) 日本化学会では化学の振興、普及を目的とした活動に対し、皆さまにご寄付をお願いしております。

化学振興活動

各種イベント(春季年会、CSJ化学フェスタ、市民公開講座等)、化学グランプリ・国際化学オリンピックへの代表生徒派遣、化学会館の修繕・補修、支部・部会活動等、本会事業全体に活用させていただきます。



国際化学オリンピック表彰式



春季年会学生ポスター発表



高校生のための化学講座

化学だいすきクラブ事業

小・中学生対象事業を専門にした支援です。子どもたちへ冊子の無料配布や実験教室を開催するために活用させていただきます。

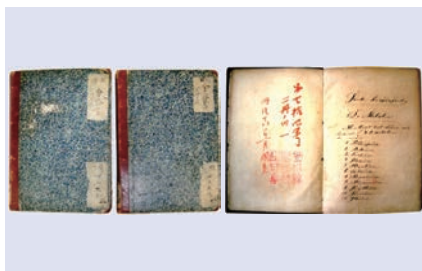


化学遺産事業

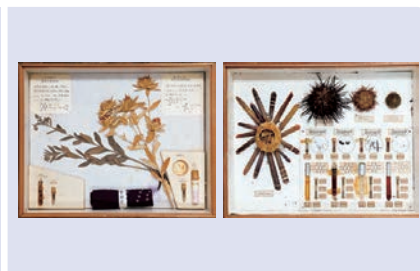
化学・化学技術に関する歴史的に貴重な史料を守り、また化学関係の諸先達の偉業を伝えるなど化学の業績を後世に伝えていくための活動に活用させていただきます。



宇田川榕菴自ら描いたと推定される
気体実験用の器具類 (認定化学遺産 第001号)



日本最初の化学講義録 朋百合密書 (ボンベ化学書)
(認定化学遺産 第007号)



(左) 紫根と紫根染めとシコニン標本 / (右) ウニとその色素
スピノクロムの標本 (認定化学遺産 第019号)

本会への寄付金は税制上の優遇措置(寄付金控除)が受けられます。詳しくは日本化学会ウェブページをご覧ください。

寄付の詳細は **日本化学会** で検索ください。



化学会概要

沿革

1878 年	化学会創立，翌年，東京化学会と改称
1898 年	工業化学会創立
1921 年	東京化学会が日本化学会と改称
1941 年	社団法人に移行
1948 年	日本化学会と工業化学会が合併
1978 年	創立 100 周年記念
1991 年	化学会館竣工
2003 年	創立 125 周年記念（天皇皇后両陛下ご臨席）
2011 年	公益社団法人に移行
2018 年	創立 140 周年
2020 年	化学会館改修

会員（2025 年 2 月末現在）

約 2.3 万人の会員を擁し，国内自然科学系の学会としては最大の規模を誇る。法人正会員は 396 法人。

会員種	
個人正会員	15,871
学生会員	4,488
中高生会員	127
教育会員	1,441
名誉会員	62
法人正会員	396
公共会員	259
合計	22,644

目的・事業

（目的）

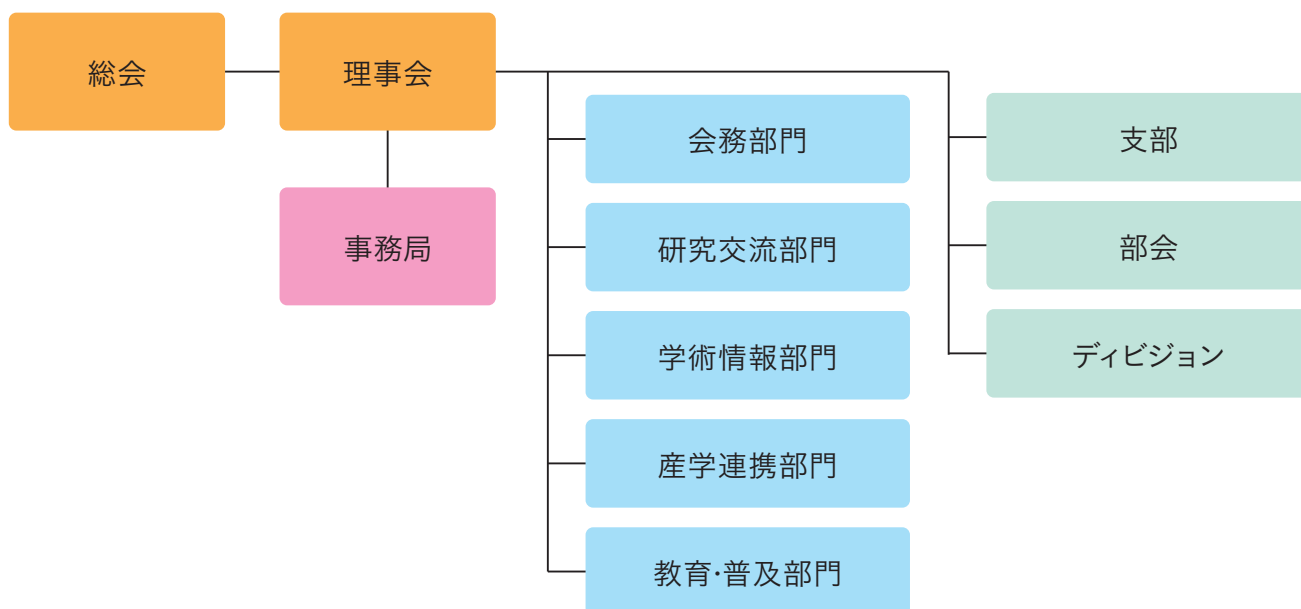
本会は，化学に関する，学術の進歩・技術の発展・産業の振興・知識の普及，並びにそれを担う人材の育成を図り，もって社会の発展に寄与することを目的とする。（定款第 3 条）

（事業）

本会は，前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 学術集会の開催
 - (2) 会誌並びに学術図書の刊行
 - (3) 内外の関連学協会との連携，協力
 - (4) 研究の奨励及び研究業績の表彰
 - (5) 産学，産産交流並びに連携の推進など産業の振興に資する事業
 - (6) 化学知識の普及に資する事業
 - (7) 化学教育の振興など人材の育成に資する事業
 - (8) 化学の振興に関する政策提言
 - (9) 科学及び技術に関する調査，研究
 - (10) 科学及び技術に関する研究の助成
 - (11) その他本会の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業は，日本全国及び海外において行うものとする。（定款第 4 条）

組織図



役員 (2025年5月26日現在)

会長	丸岡啓二 (京都大学)	理事	佐藤敏文 (北海道大学)
筆頭副会長	馬場嘉信 ((国研)量子科学技術研究開発機構)	理事	茂本 勇 (ダイキン工業(株))
常務理事	鈴木慎一 (日本化学会)	理事	島ノ江憲剛 (九州大学)
副会長	石井洋一 (中央大学)	理事	島本啓子 ((公財)サントリー生命科学財団)
副会長	佐藤一彦 ((国研)産業技術総合研究所)	理事	清水史彦 (三菱ケミカル(株))
副会長	竹中 克 (旭化成(株))	理事	鈴木由美子 (上智大学)
副会長	林 高史 (大阪大学)	理事	長瀬 忍 (花王(株))
副会長	鳳城延佳 (出光興産(株))	理事	菱川明栄 (名古屋大学)
理事	跡部真人 (横浜国立大学)	理事	火原彰秀 (東京科学大学)
理事	五十嵐達也 (富士フイルム HD (株))	理事	水田 勉 (広島大学)
理事	石原一彰 (名古屋大学)	理事	叶 深 (東北大学)
理事	大内 誠 (京都大学)	監事	加藤昌子 (関西学院大学)
理事	大塚英幸 (東京科学大学)	監事	富重圭一 (東北大学)
理事	岡本晃充 (東京大学)	監事	福田 伸 (北海道大学)
理事	菊地和也 (大阪大学)	監事	三浦雅博 (大阪大学)
理事	小島隆彦 (筑波大学)		

計 31 名

会計報告 (2024 年度)

貸借対照表 (要約版)

2025 年 2 月 28 日現在

科目	(単位：千円)
〈資産の部〉	
流動資産	291, 576
固定資産	2, 248, 532
基本財産	576, 721
特定資産 (負債対応)	171, 477
特定資産 (指定)	739, 615
特定資産 (一般)	323, 341
その他固定資産	437, 378
資産合計	2, 540, 108
〈負債の部〉	
流動負債	180, 285
固定負債	198, 381
負債合計	378, 666
〈正味財産の部〉	
指定正味財産	739, 615
一般正味財産	1, 421, 827
正味財産合計	2, 161, 442
負債及び正味財産合計	2, 540, 108

正味財産増減計算書 (要約版)

2024 年 3 月 1 日～2025 年 2 月 28 日

科目	(単位：千円)
〈収益〉	
受取会費等	236, 714
イベント関連収益	157, 954
購読・印税等収益	118, 287
賃貸関連収益	120, 297
補助金・寄付金等収益	132, 244
広告掲載収益	46, 276
運用等収益 他	36, 084
収益 計 (経常収益＋経常外収益)	847, 856
〈費用〉	
事業費	759, 248
管理費	52, 380
費用 計 (経常費用＋経常外費用)	811, 628
投資有価証券評価損益	- 6, 876
当期増減額	29, 352
法人税等	70
当期一般正味財産増減額	29, 282

受取補助金内訳

交付者	(単位：千円)
日本学術振興会 (国際情報発信強化)	43, 100
徳山科学技術振興財団 他	7, 882
計	50, 982

受取寄付金内訳

	(単位：千円)
化学振興事業	12, 296
化学だいすきクラブ事業	2, 681
化学遺産事業	568
計	15, 545

ノーベル賞受賞会員



©*The Nobel Foundation.

2019年
受賞

化学賞

吉野 彰

受賞理由: リチウムイオン電池の開発
1999年 化学技術賞受賞

2015年
受賞

生理学・医学賞

大村 智

受賞理由: 線虫の寄生によって引き起こされる感染症に対する新たな治療法に関する発見

2014年
受賞

物理学賞

天野 浩

受賞理由: 高輝度青色発光ダイオードの発明

2014年
受賞

物理学賞

赤崎 勇

受賞理由: 高輝度青色発光ダイオードの発明

2010年
受賞

化学賞

根岸英一

受賞理由: 有機合成におけるパラジウム触媒
クロスカップリング
1999年 日本化学会賞受賞

2010年
受賞

化学賞

鈴木 章

受賞理由: 有機合成におけるパラジウム触媒
クロスカップリング
1989年 日本化学会賞受賞

2008年
受賞

化学賞

下村 脩

受賞理由: 緑色蛍光タンパク質の発見とその応用

2002年
受賞

化学賞

田中耕一

受賞理由: 生体高分子の同定および構造解析のための手法の開発

2001年
受賞

化学賞

野依良治 (日本化学会 元会長)

受賞理由: 不斉触媒による水素化反応の研究
1985年 日本化学会賞受賞

2000年
受賞

化学賞

白川英樹

受賞理由: 導電性高分子の発見と開発

1981年
受賞

化学賞

福井謙一 (日本化学会 元会長)

受賞理由: 化学反応過程の理論的研究



公益社団法人
日本化学会

〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5
TEL: 03-3292-6161 FAX: 03-3292-6318
<https://www.chemistry.or.jp/>

デザイン: 株式会社マツダオフィス
印刷: 三永印刷株式会社

2025.06.

